

# APAQG珠海会議について

## 1. はじめに

2016年9月8日～9日に中華人民共和国 珠海市にて、APAQG (Asia-Pacific Aerospace Quality Group) 珠海会議が開催された。APAQG はIAQG (International Aerospace Quality Group (国際航空宇宙品質グループ)) のアジア・太平洋地域組織であり、JAQG (Japanese Aerospace Quality Group (航空宇宙品質センター)) もその一員としてIAQGの活動戦略目標に対応したAPAQG内の活動方針決定やIAQGへの意見吸い上げに対してリーダーシップを発揮している。以下に今回の会議について報告する。

## 2. 会議の概要

- (1) 今回のAPAQG珠海会議には、アジア太平洋地域の航空宇宙関係28組織から59名が参加した。今回のAPAQG会議では、インドの2社を新APAQG会員メンバーとして迎えることができ、APAQG活動を拡大する有意義な会議であった。
- (2) 評議会ではIAQGの最新の活動状況（規格要求、国際航空宇宙認証制度管理、製品及

びサプライチェーン改善、国際スペースフォーラム、防衛当局関係強化、MRO関係成長戦略) についての情報の共有を図るとともに、今後のAPAQG活動方針を確認した。  
(3) 2017年秋のAPAQG会議をタイで開催することが決定された。

APAQG珠海会議の参加国、参加組織は以下の通りである。

- 日本：MHI, KHI, FHI, IHI, 海外物産, SJAC
- 中国：AVIC, COMAC, HEAI, Boeing Tianjin Composites, AEAC
- 韓国：KAI, KAL, Hanwha Techwin, LIG Nex1, LRQA, Hanwa Corporation/Machinery, KAIA
- シンガポール：DSO National Laboratories, Liebherr-Singapore Pte Ltd, UTC, Rolls Royce, SAFRAN ELECTONICS ASIA Pte Ltd
- フィリピン：Moog
- タイ：Triumph Aviation Services Asia
- インド：Hindustan Aeronautics Limited (HAL), SLN Technologies Pvt. Ltd



評議会の様子



評議会の様子



評議会後の集合写真（APAQGメンバー）

### 3. 評議会 会議内容

#### (a) 主要な審議結果

評議会での主要な審議結果は以下の通りである。

- ・ インドのHAL、SLN Technologies 社の入会が承認された。
- ・ APAQGの2017年予算案が承認された。
- ・ APAQG 運営細則（PROCEDURE）の改訂が承認された。
- ・ 2017年春のAPAQG会議は、3月8日～9日にフィリッピン（マニラ市）で開催することが確認された。

- ・ 2017年秋のAPAQG会議開催国について、タイ国での開催が確定した。

#### (b) 各国のステータス報告

評議会での各国のステータス報告は以下の通りである。

日本：JAQG幹事長（嶋貫 雅一（FHI）（敬称略））より、JAQG活動状況が報告された。

JIS Q 9100規格の認証取得会社は635社、JAQGメンバーは417社（2016年7月末時点）。概略年20%の増加率で

伸びている。

2016年度の活動としては、

- ・ 2013-2018年の活動計画に基づき、JAQG活動の促進を図った
- ・ JAQGの活動については、JAQGメンバーの9割が満足しているとのアンケート結果が得られた
- ・ 強固なQMS構築に関しては、日本起案の6ガイダンス文書のうち、IAQG SCMHとして4文書の発行準備が計画通りに進められている（2文書は発行済）
- ・ ステークホルダーとの協力関係を強化、継続している
- ・ JAXA殿の品質要求事項にJIS Q 9100が取りこまれた
- ・ JIS Q 9100及び12のSJAC規格の発行を2017年3月までに計画している

との報告があった。



嶋貴JAQG幹事長（FHI）

中国：Mr. XU Jianqiang（COMAC）からCAQG（China Aerospace Quality Group）の活動状況が報告された。CAQGは正会員11社、一般会員は57社で前回の名古屋会議からメンバーの増加はない。

CAQGは2016年は、

- ・ CAQG憲章の改定

- ・ IAQG規格の調査
- ・ CAQG広報活動の強化
- ・ CAQG ワーキンググループ活動の促進

に焦点をあて活動しているとの報告があった。

また、AVICからエンジン部門がスピンオフして設立されたAECC社がCAQGのメンバーに加入した。

韓国：Mr. Cho Sung kil（KAI）より、自国企業の認証は、主にAS9100/9110/9120によっており、韓国のAS9100認証取得会社は384社（半年で37社増加）、また、AS9110とAS9120認証取得会社はそれぞれ20社、8社となっていることが報告された。KAIA（韓国航空宇宙工業会）のもと2016年2月に設立されたKAQG（Korea Aerospace Quality Group）の活動状況、及び2018年秋のIAQG釜山会議の準備状況が報告された。

シンガポール：Mr. Jeffrey Ho（Rolls Royce）より、シンガポール国内の認証状況は、AS9100認証取得会社は119社、AS9110とAS9120認証取得会社はそれぞれ16社、42社と増加していること、SAQG（Singapore Aerospace Quality Group）のメンバーも1名増え、2016年6月、7月にそれぞれ会議を開催したことが報告された。

(c) IAQG戦略検討ワーキンググループ傘下の分科会の活動報告

評議会では、各分科会の個別報告が行われた。（ ）内は報告者（敬称略）である。

このセッションはIAQG会議に参加してい

ないAPAQGメンバーに最新のIAQGの情報を提供し、IAQG活動の成果を共有するという側面を持っている。今回は、9100シリーズ規格の発行状況、及び2016年10月に開催予定のIAQGマイアミ会議での活動計画の報告がなされた。

#### 規格要求分科会

(白井 達矢 IAQG RequirementチームのAPAQGリーダー (KHI))



白井氏 (KHI)

IAQG各規格の現況に関する概略説明に続いて、主な規格の改正状況については、それぞれの規格チームのSDR (Sector Document Representative) から報告がなされた。

- ・ 9100規格改正状況 (首藤 寛9100 チーム SDR (MHI))



首藤氏 (MHI)

- ・ 9146規格改正状況 (首藤 寛9146チームメンバー (MHI))
- ・ 9136規格改正状況 (渡邊 靖9136チーム SDR (MHI))
- ・ 9147規格改正状況 (Liu Haibo 9147チーム SDR (COMAC))

#### 製品及びサプライチェーン分科会

(渡邊 靖IAQG PSCIチームのAPAQGリーダー (MHI))

IAQG PSCI (Product & Supply Chain Improvement) チームの活動として、IAQG SCMHS文書が2016年に新たに1点発行され、3点が発行目前、5点が作業中であるとの報告がなされた。

(このうち、3点はJAQG起案のガイダンス文書がIAQG SCMHS文書として発行されるものである。)

また、「IAQG重点項目に対するSCMH及び規格の開発計画検討」、「9100シリーズ規格の活用レベル向上」など8つのIAQG PSCIチームの今年の活動計画・活動実績についての報告もなされた。



渡邊氏 (MHI)

#### 国際スペースフォーラム

(柳川 祐輝IAQG スペースフォーラムのAPAQGリーダー (MHI))

IAQG シンガポール会議でのスペース

フォーラム活動概要紹介、2016年～2020年までの5か年活動計画及び2016年活動状況が報告された。



柳川氏 (MHI)

防衛当局関係強化分科会  
(朝倉 崇IAQG Defense TeamのAPAQGリーダー (IHI))

IAQG ディフェンス チームの活動として、各セクターの活動概要が報告された。



朝倉氏 (IHI)

MRO (Maintenance, Repair and Overhaul)  
関係成長戦略

(Mr. David TAN (IAQG MRO チームの  
APAQG リーダー (UTC))

IAQG 9110 : 2016の作成状況、及び今後の  
IAQG MROワーキンググループの活動計画に  
関する報告がなされた。



Mr. David Tan (UTC)

OPMTチーム活動報告

(福本 克治 IAQG OPMTのAPAQGリーダー  
(KHI))

IAQG OPMT 各セクターの活動状況、  
9100/9110/9120 : 2016規格の移行計画、次世  
代OASIS (Online Aerospace Supplier  
Information System) データベース開発状況の  
報告がなされた。



福本氏 (KHI)

(d) その他のトピックスの紹介

以下のトピックスが紹介された。

APAQGプロモーション活動

(北森 直樹 APAQGセクター リーダー (KHI))

2016年2月にインド バンガロール市で開  
催したAPAQGセミナーの成果として、今回  
インドから2社がAPAQGメンバーとして活動

に参加することとなった。次回のAPAQGセミナーとして、2016年11月フィリッピン マニラ市で開催されるAPRSF-23（アジア・太平洋地域宇宙機関会議；Asia-Pacific Regional Space Agency Forum）に合わせ、2016年11月18日に開催する計画であることが発表された。



北森氏 (KHI)

#### 新APAQGメンバー紹介

インドの SLN Technologies社とHAL社の2社が新メンバーとして承認された。



Mr. Mohammad Ali (SLN Technologies)



Mr. Razack (HAL)  
新メンバー紹介

2017年春 APAQGマニラ会議についての紹介



Mr. Subramanya Bhat (Moog)

#### 工場訪問

会議終了後、APAQGメンバーでAVIC珠海工場を訪問した。

#### 4. おわりに

IAQGは、世界共通の航空宇宙品質マネジメントシステム規格（9100規格）を初めとする関連規格の制定、9100規格認証制度の維持に加え、“On Time, On-Quality Delivery (OTOQD)” を効率的に達成することを目標に活動を展開している。

アジア太平洋地域のIAQG活動は長年日本がリードしてきたが、ここ数年で中国/

CAQG、シンガポール/SAQG、に続き韓国/KAQGが設立される等、アジア各国の活動も活性化して来ている。その成果が認められ、IAQG 評議会 での投票権の割り当てが6社⇒7社となった。IAQGの中で、アジア太平洋地域の発言力を増して行くためには、APAQG活動を更に活発化させ、多くのアジア太平洋

地域のメンバーが継続的にAPAQG会議並びにIAQG会議に参加することが重要である。

今後ともJAQGは、APAQGのリーダーとしてAPAQG活動を牽引し、アジア・太平洋地区の意見としてIAQGに提言する活動を推進する所存である。

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 航空宇宙品質センター 事務局 部長 前畑 貴芳〕